

どうとく の ひろば

こころのひろば

「他者の多様な考え方・感じ方を体感することを
めざした情報モラル教育の実践」〔浅子秀樹〕

道徳セミナー報告

やってみよう！ これからの授業づくりと評価

見てわかる！ 道徳

「親切，思いやり」

「家族愛，家庭生活の充実」

〔越智 貢，奥田太郎，奥田秀巳〕

実践事例

小学校 自分本位でない
「自分らしく」を考えたい
〔荒武宗一郎〕

中学校 衰えてゆく祖母との
関わりを通じて家族とは
何かを考える道徳授業〔伊計拓郎〕

こんなとき，どうする？

子どもに，「どうして道徳は
テストがないの」と聞かれたら？
〔齋藤眞弓，前田 治，太田和男〕

地球の仲間からのメッセージ

母の愛情 〔長瀬健二郎〕

本資料は，一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り，
配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ！

日文

検索

未来をになう子どもたちへ

日本文教出版／秀学社



「他者の多様な考え方・感じ方を体感することをめざした情報モラル教育の実践」

LINE 株式会社 公共政策室
新潟大学 教育学部 非常勤講師
愛知教育大学 教育学部 非常勤講師
浅子秀樹



LINE 株式会社実践する情報モラル教育

2020 年度より小学校で全面施行される新学習指導要領では、「情報活用能力」をすべての学習の基盤となる資質・能力と位置づけています。とすれば、情報技術や情報機器を子どもたちから遠ざけるのではなく、個々の子どもに合った距離感を見つけるためのサポートをすることが大人の役割といえます。

LINE 株式会社は、コミュニケーションアプリ「LINE」を 2011 年 6 月 23 日に提供開始しました。多くの子どもたちも LINE を利用することとなり、彼らにインターネット（ネット）を安全に利用するために必要な「適切な距離感」をもってもらうための啓発活動も模索・実践してきました。現在ではこの啓発活動を、「情報モラル教育」として、全国の学校等で児童生徒のみならず保護者・教職員も対象に年間 2,500 回程度実施しています。

まず、子どもたちの実態の把握を

1990 年代から日本でもネットが普及し、これまで様々なネットサービスが登場しました。使用する機器も当初はパソコンが主でしたが、携帯電話、スマートフォン（スマホ）など手軽な機器が普及し、子どもたちにとってもネットはより身近なものとなっています。

2017 年に東京都の児童生徒を対象に実施した調査（図 1）では、小学 1～3 年生の 36%、4～6 年生の 55%、中学生の 80%、高校生の 98%が、スマホを「自分のものとして」持っているという結果となりました。小学校低学年でも多くの児童がスマホを持っているという実態を把握し、それに応じた情報モラル教育をすることが大切になってきています。

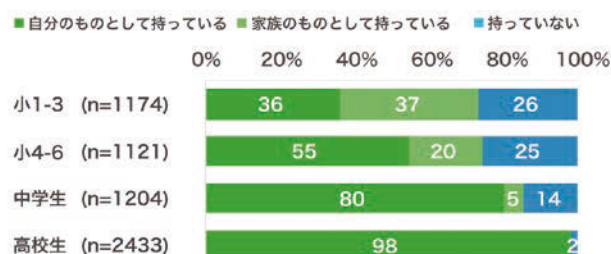


図 1 ケータイ／スマホ保有状況
（「SNS 東京ノート」効果測定およびネット利用実態把握調査結果報告（平成 29 年度）より）

私自身、教員や保護者の方々に講演をするときは、子どもたちのデジタル機器やネットの利用実態を理解することの重要性をお伝えしています。そして、子どもたちが使っているネットサービスに一度は触れてみることもお勧めしています。

数年前の教員向け講演会では、ご要望もあってスマホを持ち込んで LINE の体験をしていただくことが多くありました。LINE をそれまで使ったことのなかった先生でも、実際に使用することで、機能のみならず子どもたちがなぜ利用するのかが実感をもって理解できたようです。

子どもたちへのヒアリングでも、調査データからでも、ネットに関する相談を先生にしようとする割合は高くはありません。その理由の一つとして、先生に相談してもサービス自体を理解していないので話が通じない、という子どもの声をよく耳にするところです。効果的な情報モラル教育の実践の前提として、ぜひ子どもたちのネットの利用実態の把握に努めていただければと思います。

「されたら嫌なこと」が授業のヒントになる？

LINE が継続的に実施している青少年のネット利用

実態把握調査の中では、LINE でのトラブル系の調査も行っています（図 2）。「実際に体験した嫌なこと」と「されたら嫌だと感じること」との 2 つの視点で子どもたちに調査してみたところ、そこには大きなギャップがあることがわかりました。

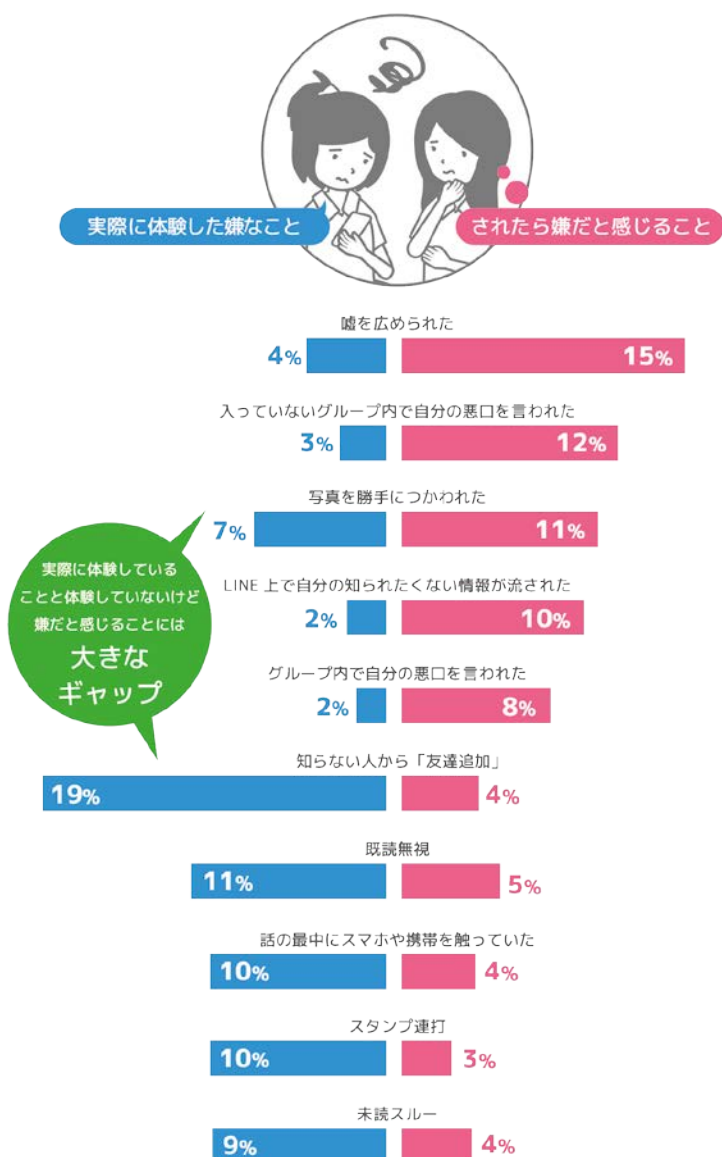


図 2 ネットで「実際に体験した嫌なこと」「されたら嫌だと感じること」
（青少年のネット利用実態把握を目的とした調査 平成 29 年度最終報告書より）

「されたら嫌だと感じること」で割合が多い項目としては、「嘘を広められた」（15%）、「入っていないグループ内で自分の悪口を言われた」（12%）、「写真を勝手につかわれた」（11%）となっています。他方、「実際に体験した嫌なこと」で割合が多い項目としては、「知らない人から『友達追加』」（19%）、「既読無視」（11%）、「話の最中にスマホや携帯を触っていた」（10%）となっています。

教員向け研修会では先生方になぜこのように大きなギャップが生まれるのかをグループワークで話し合ってもらっていますが、大きく 2 つの見解に分かれます。1 つ目は、『「されたら嫌だと感じること」で割合が多い項目は、自分が嫌なことは他人にもしてはいけないという規範意識があるから、実際の体験としては少ないという結果になっている』という見解です。

2 つ目は、『「実際に体験した嫌なこと」で割合が多い項目は、されればすぐに認識できるものばかりなので体験の割合も高くなり、逆に『されたら嫌だと感じること』で割合が多い項目は、自分が知らないところでされている可能性があるので体験の割合が少ないのではないか』という見解です。

両方の見解とも説得力がありますが、さらに先生方に「このデータ分析を基にご自身で情報モラル教育を実施するとすればどのテーマで行いますか？」と問いかけると、両見解で指導方針も異なってきます。前者の見解であれば、『「されたら嫌だと感じること」でパーセンテージが高い項目は、『実際に体験した嫌なこと』では少ないのだから、情報モラル教育としては『実際に体験した嫌なこと』で割合が多い項目をテーマにすべき』という見解につながります。他方、後者の見解を持つ先生方は、『「されたら嫌だと感じること」で割合が多い項目こそ重要であって、情報モラル教育もそこに重点を置くべき』という見解につながります。

どちらが正解ということはありません。ただ、「されたら嫌だと感じること」で割合が多い項目は、体験したとすれば心的ダメージは軽くはなく、場合によっては重症化する危険もありますので、しっかりとした教育が必要でしょう。

そもそも情報モラル教育とは

新学習指導要領では情報モラルを「情報活用能力（情報モラルを含む）」と定め、学習指導要領解説では、「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」と位置づけています。

「Society（ソサエティ）5.0^{*}」という言葉に代表されるように、今後の超情報化社会を見据え、子どもたちの学習のあり方も大きく変化せざるを得ず、現在関係各所で様々な取り組みや議論がなされています。

情報モラル教育もこれまでは「トラブル回避」という面ばかりが強調されがちでしたが、今後は情報の活用の仕方や場面に応じて情報モラルを考えることが重要と考えられています。

例えば、2011 年の東日本大震災や 2016 年の熊本地震の際には SNS が活用され、その有用性が証明されました。他方、デマ情報による混乱も見られるなど

使用上のモラルや節度が問われる場面もありました。

プログラミング教育の必修化など今後の情報教育が進展すればするほど、児童生徒のスキルも向上し情報活用範囲も広がります。その広がりに合わせて必要な情報モラルを定義し、情報モラル教育の充実化・カリキュラム化を行うことが必要であることは想像に難くありません。

＊ Society (ソサエティ) 5.0……AI, ロボット・自動運転, IoTなどを活用し、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。

情報モラル教育と道德の関係

学校現場では情報モラル教育の必要性が認識されつつも、その言葉から何か特別な教育であると躊躇してしまう先生もいらっしゃいます。

しかし、私がいちばんにお伝えしたいのは、情報モラル教育の中心は道德教育にあり、何か新しい特別の教育の必要があるわけではないということです。

平成30年度から「特別の教科 道德(道德科)」が設置され、学習指導要領では道德科での情報モラルに関する指導の充実を求めています。

LINE 株式会社が実施する情報モラル教育は道德的見地をベースに教材を組み立てており、大きくは下記の3つの育成をテーマに教材を制作してきました。

- ①日常モラル
- ②ネットでのコミュニケーションの特性理解
- ③想像力・判断力

特に①日常モラルは道德教育と最も近接する部分であり、LINE 株式会社としても重要テーマとして教材制作を進めてきました。

新学習指導要領では、学び方として「主体的・対話的で深い学び」を求めています。

教材制作を検討した2014年当時、情報モラル教育で対話を織り込んだプログラムは私が知る限りありませんでした。知識を伝えるだけなら従来の一方的な講演型授業でも成り立ちます。しかし動的で型がないコミュニケーションで発生するトラブルに関しては、具体的にモデルとなる解決策はなく、個々の経験則や価値観も大きく関わるため、「対話による気づき」が最も教育的効果を生み出す手法であると考えました。

そこで、ワークショップ型授業の実践を模索しながら、2014年8月に情報モラル教材『「楽しいコミュニケーション」を考えよう!』をリリースいたしました(図3)。

本教材の最大の特徴は、カード教材を使用したグループ単位での対話にあります。「まじめだね」「おとなしいね」「個性的だね」などの言葉が並んだ5枚1

組のカード教材を児童生徒に配付し、「あなたが、クラスの友達に言われて『いやだな』と感じるのはどれ?」と問いかけます。児童生徒は選んだカードをグループメンバーで一斉に見せ合います。するとカードがメンバーそれぞれで異なる場合も多く、自分と異なる言葉のとらえ方をしている人、見られ方を気にしている人がいる、ということを知ります。そこから、カードを選んだ理由を聞き合うことで、異なる理由やメンバーの多様な価値観に触れることができ、お互いに理解を深めることができるのです。



〈スライド教材〉



〈カード教材〉

図3 情報モラル教材「楽しいコミュニケーション」を考えよう!

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「特別の教科 道德編」の「道德科の目標」には、「児童が道德的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにする。また、他者の多様な感じ方や考え方に触れることで身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい自己を深く見つめられるようにする。」との記述がありますが、我々の教材の狙いもまさにここに 있습니다。一方的に子どもたちが怖がるような話をするのは簡単ですが、聞く子どもたち本人に当事者意識がないと他人事として終わってしまいます。対話を通じて当事者意識を醸成し、多様な意見に触れることで「自己と他者の違い」をリアルに体験することが、ネットのコミュニケーションをよりよくするための土台となります。このため、ネットの話以前にそもそもの日常モラルを考える教材制作に力を入

れています。

ネットでのコミュニケーションの特性とは？

道徳教育の重要性は前述しましたが、情報モラル教育においては子どもたちがネットでのコミュニケーションの特性を理解する指導も必要となります。



図4 ネットでのコミュニケーションの特性を知るための教材

LINE 株式会社では、リアルとネットのコミュニケーションの違いについて学ぶ教材も開発しています。図4はその一つで、「まじめだね」という文字のみ送られてきたケースと文字だけでなくスタンプも送られてきたケースを比較し、文字だけだと真意が伝わりにくいことを実感するものです。

LINE の講師派遣では、講師は学校に伺った際にその学校で発生したトラブル事例を担当の先生にヒアリングすることもあります。その中で多いものの一つがメッセージの「誤解」に起因したトラブルです。リアルの状況とは違って、顔の表情や声のトーンなどが伝わらない限定した環境下で行うネットのコミュニケーションでは、送られてきたメッセージの真意を読み解くだけの材料が少ないため、勘違いから相手とけんかになるケースが小学生段階では少なくありません。

ネットのコミュニケーションは自分の思いや真意を伝えることが意外に難しいということを子どもたちが理解し、言葉や表現に気をつけるように心がけることが、ネットのコミュニケーショントラブルの予防としては重要といえます。

情報モラル教育は誰が行うか？

新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」を基本理念としています。その実現のために、社会で日々活動している企業等がそのノウハウを提供し、それが学校教育に生かされることは理念に沿ったものといえます。

2016年に都内中高生 2,725 人を対象に、「情報モラル教育を受講した経験」と「ネット上での問題に直面した経験」の関係をアンケート調査しました。その結果、情報モラル教育を受けた生徒はそうでない生徒よりもネット上の問題経験率が低くなる傾向があることがわかりました（図5）。このことから、継続的な教育が、ネット上の問題の低減に影響することが示唆されました。

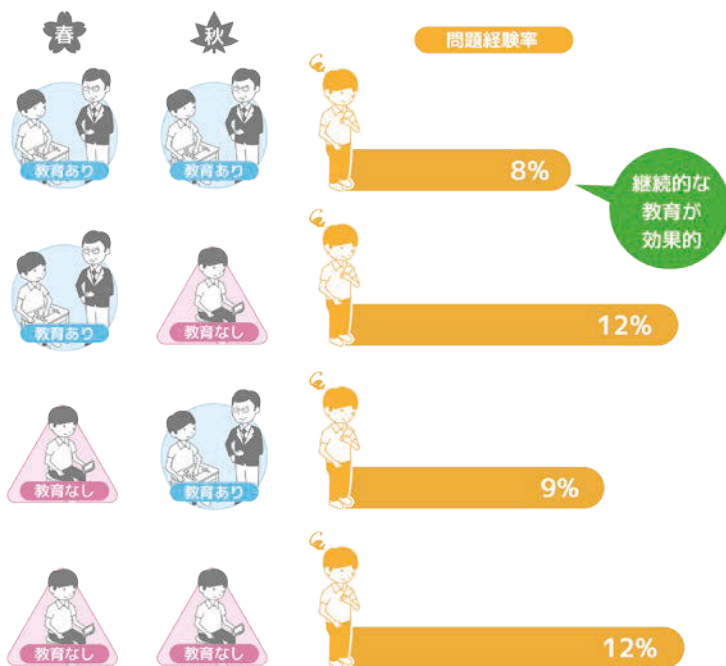


図5 春学期・秋学期の情報リテラシー教育経験と秋学期での問題経験率

（青少年のネット利用実態把握を目的とした調査 第2回アンケート結果 速報版より）

LINE 株式会社に限らず、現在では多くの企業等が教育 CSR（教育貢献活動）として青少年のネットの安全な利用のための啓発活動を実施しています。ただ、学校としても何度も外部講師を招くことは現実的ではなく、継続的な教育という点ではそれだけに頼ることはできません。

情報モラル教育の中心は道徳教育にあり、適切な指導を実施できるのは個々の子どもをよく知る教職員や保護者です。一期一会的に企業等が行う出張授業では限界があります。企業等が実施する活動をひとつのきっかけにさせていただき、「教員主導による」子どもに寄り添った継続的な情報モラル教育へつなげていただくことが理想と考えています。

教員主導の情報モラル教育のために

2018年6月から8月に弊社が講師派遣した教員

向け研修会にて実施した教員向けアンケート調査では、学校現場で情報モラル教育を実施することの課題として「教員の指導経験不足」(32%)、「時間が確保できない」(26%)、「適切な教材がない」(25%)との回答がありました(n=990)(図6)。この結果から、適切な教材と、授業準備に時間をそれほど要しない仕組みがあれば教員の授業実施率は上がると考えられます。

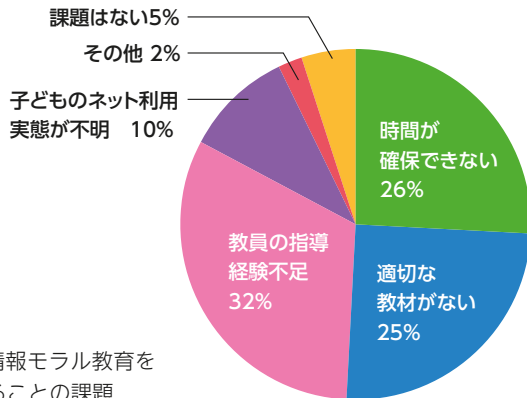


図6 情報モラル教育を実施することの課題

LINE 株式会社は、より体系的・組織的・継続的に情報モラル教育を推進するために、ここ最近では各地域の教育委員会との連携を深めています。

その一つの実例として、東京都教育委員会との連携があります。2016年4月に協定を締結し、情報モラル教育教材「SNS 東京ノート」を共同開発しました。これは現在、都立公立学校の全児童生徒に配布され活用されています。具体的な教材を教育委員会から提供されたことで、東京都の先生方は迷いなく使用することができ、子どもたちも体系的に学ぶことが可能となりました。

そしてこの東京都の事例を全国に波及すべく、新教材「SNS ノート (情報モラル編)」(図7)を開発し、無償提供を開始いたしました。これも発達段階(小学1年生～高校3年生)に応じて体系的に情報モラルを学習できる教材となっています。さらに、各地域の教育委員会と連携し、導入サポートとして教員向け研修会を無償で実施いたします。LINE 株式会社は今後も地域や教育機関の方々と継続的な連携をし、情報教育の発展に努めてまいります。



図7 SNSノート(情報モラル編)

関連資料ダウンロードサイト

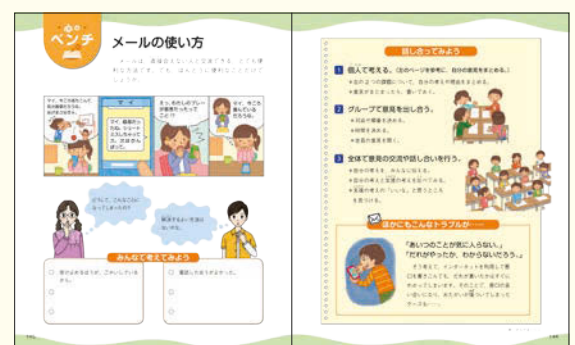
- ・「SNS 東京ノート」効果測定およびネット利用実態把握調査結果報告(平成29年度)
<https://linecorp.com/ja/csr/newslist/ja/2018/189>
- ・青少年のネット利用実態把握を目的とした調査 平成29年度最終報告書
<https://linecorp.com/ja/csr/newslist/ja/2018/156>
- ・青少年のネット利用実態把握を目的とした調査 第2回アンケート結果 速報版
<https://linecorp.com/ja/csr/newslist/ja/2017/86>
- ・「SNS ノート (情報モラル編)」教材ダウンロードサイト
<https://linecorp.com/ja/csr/newslist/ja/2018/190>

日本文教出版の道徳科の教科書『生きる力』でも、情報モラルに関するさまざまな教材・コラムが掲載されています。



4年生「交かんメール」p.118～121

5年生
「知らない間のできごと」
p.140～143



5年生 心のベンチ「メールの使い方」p.144～145

やってみよう！ これからの 授業づくりと評価



小学校では、平成 30 年度より「特別の教科 道徳」が実施、また、中学校でも平成 31 年度から使う教科書も決まり、まもなく実施となります。

そこで日本文教出版では昨年 12 月 2 日に大阪・梅田にて道徳セミナーを開催し、120 名を超える先生にご参加いただきました。

分科会① [中学校]

太田和男 先生
関西外国語大学 教授

「中学校は
これからスタート
～教科書と評価に
ついて考える～」



来年度から実施される中学校の道徳科について、教科書に掲載されている教材や発問を活用しながら、それに縛られず柔軟に指導する手立てを解説。道徳科の授業での様子に実際の行動が伴わない子どもに対しても「その子がいい子だと信じて書く」という、積極的に励ます個人内評価の大切さをお話いただきました。

分科会② [小学校]

龍神美和 先生
豊能町立東ときわ台小学校
教諭

「日々の授業づくり
～ノートを使い方と
評価のアイデア～」



授業づくりにおいて大切なのは、「子どもたちが新しく学ぶことは何か」をもっておくこと。意見の引き出し方のコツとして「あなたは～」と聞くよりは、一般的な話として聞く方がよいなどのアイデアやノートの具体的な使い方などをお話いただきました。

講演

島 恒生 先生
畿央大学大学院
教授

「授業づくりと 評価」

「道徳科」実施に向けての課題は、子どもにとっても、教師にとっても楽しい道徳科にすること。

そのために必要な手立てを、板書の構造や、内容項目についての考え方など、具体例を交えながら提示していただきました。



アンケートより

ご参加のみなさまから多くの声を寄せていただきました。その一部を紹介します。

- 具体的に教材を使って、資料等を提示していただけて大変わかりやすく、来年度の現場で生かせる研修だったと思います。
- 島先生の講演では毎回新しい発見をします。「考え、議論する道徳」の授業づくりの視点を分かりやすく教えていただけました。
- いま実践できていることを実感できたとともに、まだまだできていない部分はもう一度しっかり考えたいと改めて考える機会となりました。
- 道徳ノートの使い方について迷うことが多いので、お話を聞けて考えが広がり勉強になりました。

「親切, 思いやり」 「家族愛, 家庭生活の充実」

他者と家族

自己と他者との区別は明快です。身近な他者でも、他者は他者です。だれでも自己を他者よりも優先しようとしますし、満員電車の中でもない限り、見知らぬ他者とは距離を取るのが普通です。道義心のある人でも、自分に危険が及ぶ場合には、あえて危険を冒して他者を助けようとはしないでしょう。

しかし、家族となると話は別です。自分よりも家族を優先し、家族のために労をいとわない人は少なくありません。肌が触れ合っても、不快に思うことはないでしょうし、家族が危険な場合には、たとえわが身が危険にさらされようとも助けようとするでしょう。万一家族が傷つくことがあれば、自分が傷つく以上の痛みを感じるに違いありません。

家族と血縁

このように、家族は自己とは異なった人間ではあっても、けっして他者ではありません。家族と他者との違いはどこにあるのでしょうか。

しばしば挙げられるのは血縁の有無です。確かに、たいていの家族に血縁関係が成り立ち、その点で他者

とは異なります。しかし、同性婚の例を挙げるまでもなく、血縁に拠らないさまざまな家族形態が存在します。そもそも家族の核となる夫婦は他者同士ですし、そこに養子が入った家族であれば、遺伝的につながりのない家族です。そして、血縁がなくても、充実した家庭生活を築いている家族は少なくありません。

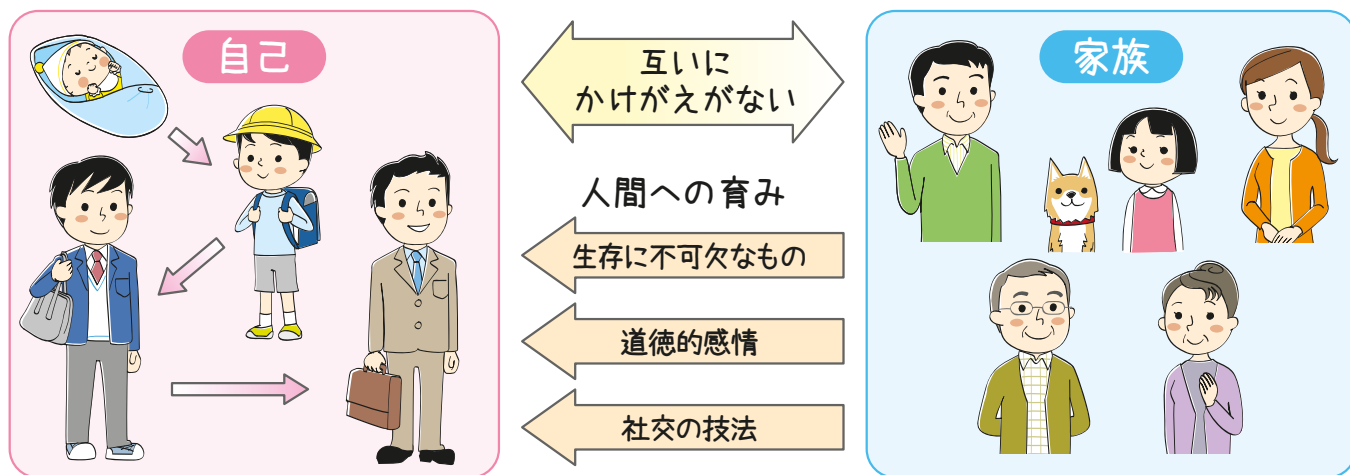
このように、血縁関係が家族の必須の条件ではないとすれば、何が家族を作るのでしょうか。自己と家族との関係を問い直す必要がありそうです。

特別な存在

この世界で私たちが最初に出会う人間が家族であることを見落とすべきではないでしょう。私たちはその家族から生存に不可欠なすべてを与えられ、人として身につけるべき多くの技術を学びます。優しさや思いやりといった道徳的な感情、さらには挨拶や感謝や謝罪などの社交の技法も家族の中ではじめて経験するのです。

このように、私たちをこの世界に迎え入れ、いわば人間へと育んだ家族は、そうした関わりをもたない他者とは比較にならないほど特別な存在です。家族に代わる人はどこにもいないというべきでしょう。

図1 自己と家族の関係



監修：桃山学院教育大学 教授 越智 貢

共著：南山大学 教授 奥田太郎

富山国際大学 講師 奥田秀巳

かけがえのない家族

私たちは、他に代えるものがないことを「かけがえのない」と表現します。この意味で、家族は文字通り「かけがえのない」人たちです。

しかも、家族をかけがえがないと感じる当人が、その家族にとってもかけがえのない人であることを見逃してはなりません。通常、子にとって親はかけがえのない存在ですが、その親にとっても子はかけがえのない存在です。つまり、家族とは、互いにとってけっして他者と代えることのできない人たちなのです。

このように考えると、かけがえのない人同士は、たとえ血縁関係になくても家族だと言わなければなりません。いや人間でなくとも家族となる場合すらあります。ペットを弔い、墓を作る人は珍しくありません。その人にとってペットがかけがえのない家族だからです。

家族愛と思いやり

家族愛を支えるのはそうした家族のかけがえのなさに他なりません。家族愛がときにエゴイスティック（＝利己的）に働くのはそのためです。

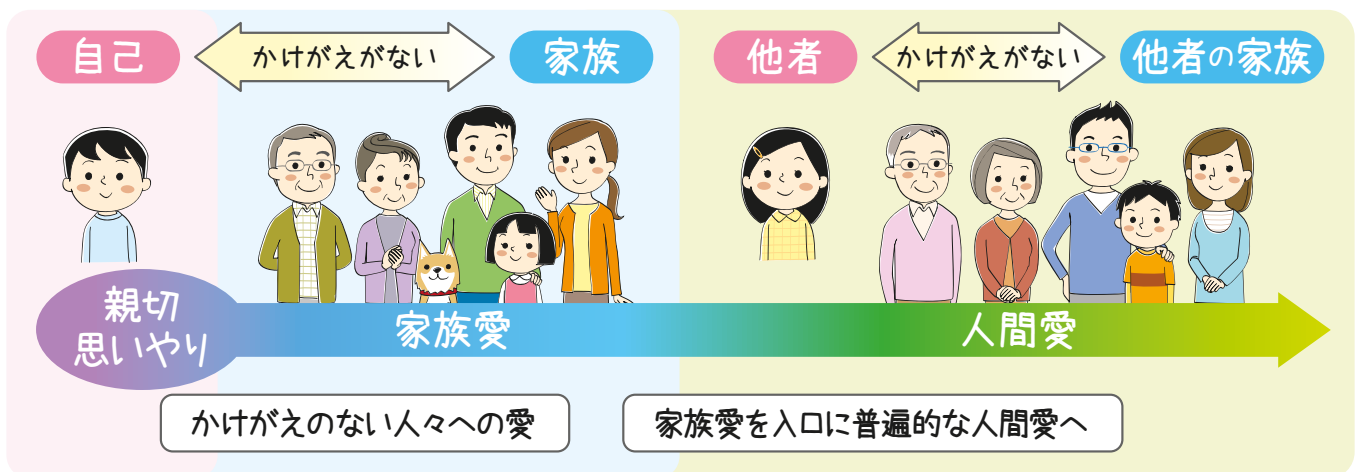
しかし、私たちの周りには、あたかも家族に対するかのような態度で他者に接する人たちがいます。思いやりの深い人、親切な人と称される人たちです。彼らがそうできる理由はさまざまでしょう。しかし、少なくとも、かけがえがないという彼らの想いが自分の家族の外に広がっていることは否めません。彼らにとって、他者が抱える問題は、もはや「他人事（ひとごと）ではない」のです。

人間愛

確かに、身近な他者でも他者は他者です。しかし、一方で、私たちには、他者の問題を「他人事ではない」と受けとめる意識があります。人はだれでも、だれかにとってのかけがえのない人、かけがえのない家族です。けっして単なる他者ではないのです。そう考えると、親切な行為や思いやりは、家族の垣根を越えるだけでなく、さらにそのずっと先にまで輪を広げることができるようになってきます。

普遍的な人間愛は私たちにとって難しい課題ですが、その入り口のひとつが家族愛であることは間違いないのです。

図2 人間愛の入口としての家族愛



自分本位でない「自分らしく」を 考えたい

昭島市立共成小学校 主幹教諭 荒武宗一郎

「前向きに生きる」とは…

- ・夢をあきらめず、いつまでも努力し続ける。
- ・思いをむだにしないよう前向きに生きる。



「最後のおくり物」として受け取ったもの

- ・人のために行動すること。幸せだと言える心の強さ。
- ・夢をかなえてほしいという強い思い。
- ・夢をもって生きることの大切さ。
- ・このままがんばれという熱い思い。

「最後のおくり物」

前向きに生きる

思わずくちびるをかみしめたとき、

・あと少しなのに、どうして今になって…。

・せいかくがんばって来たのに、ひどい…。

・こんなことなら最初から送ってくれなければよかったのに…。



1 ねらいとする価値について

児童とともに道徳の学習を進める上で、私は「生命尊重」を核に据え、他の内容項目に関連づけて指導を行う。自分の命を誕生させ、大切に育ててくれたことに感謝をする家族愛への発展、自分の命の大切さを理解した上で、同じように大切にされてきた他者を尊重していくことができるようにする親切や思いやり、寛容の精神の涵養。視野を徐々に広げ、多くの支えや願いに気づき、他者との関わりの中で生きているという自覚をもたせる愛校心や郷土愛。さらに、愛国心、国際理解へと発展させていく。価値の視野を広げつつも自己理解は深めていく必要がある。公德心と関連づけた基本的な生活習慣の確立や個性の伸長も非常に重要である。以上のように明確に関連づけて指導を行う中で、児童の自尊感情を高めていくことが大切であると考えている。しかし、それは社会と切り離されたものであってはならない。

その点において、「よりよく生きる」という内容項目は、すべての内容項目と関連づき、さらにそれらを基盤とした総括的な内容項目であると言える。人間はよい人生を送りたいと願いつつも、悩み苦しみ、自分の弱さに打ちひしがれることも少なくない。しかし、自分を過小評価したり他者との比較によって悲観的になったりするのはなく、自分らしく生きていこうとする強い心をもつことが大切である。その中で、重要視していきたいことは「自分らしく生きる」ことが、

周りの人間や社会一般から見て肯定的に受け止められるということである。12年間の生活で体得してきた内容を効果的に活用し、自分の人生を前向きに捉え、生きること誇りをもてるような時間にしたいと考える。

2 教材の活用について

この教材は、俳優を夢見るロベエと、その思いを知った養成所の守衛ジョルジュじいさんとの関わりを描いている。ジョルジュじいさんは体に無理を強いて働き、素性を明かさずロベエに金銭的な援助を続ける。援助をありがたいと感じながら勉強を続けるロベエだが、お金が届かなくなったときには、思わず送り主を恨んでしまう。しかし、ジョルジュじいさんの親切を知り、最期を看取る中で、「最後のおくりもの」を受け取る。さらに、その思いを受け取り、新たに決意をして人生に向き合っていく、という話である。

本教材は、副読本の中では「思いやり、親切」の内容項目として扱われている。新設された内容項目を児童とともに考えていく上で、選択できる教材にはまだ限りがあり、これから教材開発を進めていく必要がある。そこで、ジョルジュじいさんの利他的で誇り高い生き方や、それを受けて新たな決意で人生を切り開いてこうとするロベエの心情を共感的に捉える活動を通し、「よりよく生きる」ことについて考えを深めていくことはできないものかと授業実践を試みた。

展開例

主題名 前向きに生きる

教材名 最後のおくり物

(『私たちの道徳 小学校5・6年』 文部科学省)

ねらい

相手の気持ちを考えずに他者を責めた自分の弱さを理解し、ジョルジュじいさんの思いを胸に大きな決意をもってこれからの生活に臨もうとする口ベヌについて考える活動を通して、誇りある生き方や、前向きに生きようとする心情を育む。

学習活動（◎中心発問、○主な発問、・予想される児童の反応）

◇指導上の留意点 ☆評価

導入

1 価値への導入をする。

○「この人の生き方はすごいと尊敬している人はいますか。」という質問をしました。少し紹介します。

○今日は「前向きに生きる」ことをテーマに学習していきます。

◇事前に質問紙を配り、児童に「尊敬している人」「どうして尊敬するのか」の2点についてアンケート調査を行い、主題に迫る内容を何点か匿名で紹介し、この時間で考えることを明示する。

展開

2 教材「最後のおくり物」の範読を聞き、話し合う。

○おくり物が届かなくなり、思わずくちびるをかみしめた口ベヌの気持ちを考えましょう。

- ・あと少しなのに、どうして今になって…。
- ・せっかくがんばってきたのに、ひどい…。
- ・こんなことなら最初から送ってあげなければよかったのに…。

◎口ベヌは「最後のおくりもの」として、お金と手紙以外に、どのようなものを受け取ったのでしょうか。また、どのような決意をしたのでしょうか。

《受け取ったもの》

- ・たとえ無理をしても、人のために行動することを幸せだと言える心の強さ。
- ・夢をかなえてほしいという強い思い。
- ・夢をもって生きることの大切さ。
- ・このままがんばれという熱い思い。

《決意》

- ・あきらめずに最高の俳優になる。
- ・いつか、ほかの人のために役に立てるような人間になる。
- ・夢をあきらめず、いつまでも努力し続ける。
- ・思いをむだにしないよう前向きに生きる。

3 これからの自分の生活について考える。

○今日の学習を通して、改めて「前向きに生きる」とはどのようなことだと考えますか。

- ・夢をもって、そのために努力を続ける。
- ・人から受けた思いに気づき、それを大切にしながら、自分の力に変えて生きていく。

◇抑揚を押さえ、淡々と読み進める。

◇ありがたいという思いをもちつつも、自分の成功を願うあまりに、他者を責めてしまう人間的な弱さに気づけるようにする。否定的な捉えに流れ過ぎず、誰しも起こりうるのではないかという視点に立てるようにする。

◇机間指導において、ジョルジュじいさんが「幸せだった」と言い残して亡くなったことを想起させ、人間性を考えながら書けるよう支援する。

◇短い言葉でまとめるように指示をする。2つの内容が書けるワークシートを活用し、書いた内容をグループで交流するよう指示する。

◇友達の考えを聞くことで、多様に考えることができるようにする。

◇決意についての考えを交流することで児童の考えが広がるようにし、自分の生活について考えるときの手助けになるようにする。

◇前向きに生きることにについて多様な見方ができるようにするために、児童の考えを基に全体で話し合う時間を確保する。

☆自分の生き方に自信をもち、前向きに生きていこうと考えることができたか。

終末

4 教師の説話を聞く。

◇教師自身も成長途中にあり、弱さや悩みを抱えながらも、懸命に他者と関わりながら前向きに生きようと奮闘していることを素直に伝える。



衰えてゆく祖母との関わりを通じて 家族とは何かを考える道徳授業

帝塚山学院泉ヶ丘中学校高等学校 教諭 伊計拓郎

一冊のノート

○家族とそうでない人

・血縁関係 ・共同生活

○「知らん顔」

・家族と思われたくない。
・恥ずかしく思った。

☆なぜ↓しっかりしてほしい。

○父の視点から

・温かく見守りたい。
・なぜこんなことに…。

○背中が「小さく見えた」

・祖母の老い。
・やるせない。
・自分が成長した。

○一緒に草取り、声かけ

・祖母の愛情にこたえたい。
・きつく言ってごめんなさい。
・幸せでいてほしい。
・寄り添わずにはいけない。

☆家族ではなかったら…？

1 教材について

人間は成長するにつれて、その家族も同時に年を重ねる。できていたことが少しずつできなくなっていく父母、祖父母を目の当たりにしながら、子どもは家族を支える立場へと変わっていく。

この教材で、主人公は祖母の言動に憤りを感じて戸惑うが、それは主人公が小さかった頃のしっかり者だった祖母に戻ってほしいという願いが捨てきれないからである。また敬愛するからこそ、ノートから祖母の愛情や衰えを感じ、やるせない気持ちになるのだろう。

また父の心情を推し量れば、子育てに協力的だった頃の母の姿を思い起こし「なぜこんな状態になってし

まったのか…」と、症状が進むことにショックを受けながらも、温かく見守っていきたいのだろう。

そして祖母は、衰えてゆく自分に対して不安を抱え、孫から責められることでつらい思いをする。しかし、現在は迷惑をかけてしまっているものの、昔と変わらず家族の役に立ちたいという使命感をもって生きていることが、ノートからも読み取れる。

このように「しっかり者の祖母に戻ってほしい」という叶わない願いを抱えながら、それでも一緒にいるのが「家族」であり、たとえどんなにつらくても寄り添わずにはいけないのは、家族愛で結ばれた特別なつながりがあるからに他ならない。

2 授業の実際(S:生徒, T:教師)

○「知らん顔をして通り過ぎた」のはなぜか。

S：祖母を恥ずかしく思ったから。

T：じゃあ、どうして恥ずかしく思ったのかな？

しっかり者だった時の祖母のようにまともな服装だったら、同じように恥ずかしい思いをしていたかな？

S：していない。家族だからちゃんとしてほしかった。

T：家族だからこそ…という思いがあったんだね。

○父は祖母についてどう思っているか。

S：家族で協力して、温かく見守りたい。

S：でも、なんでこうなってしまったのかなあ…って。

S：しっかり者だった時に戻ってほしい。

T：つらいのに、祖母に向き合うのはどうして？

S：自分が育ててもらったから。

S：子どもの世話もしてくれたから。

S：今度は自分が面倒を見る番だと思っているから。

展開例

内容項目：C「家族愛，家庭生活の充実」

主題名 家族のつながりへの理解

教材名 一冊のノート
（『私たちの道徳 中学校』文部科学省）

ねらい 衰えてゆく祖母との関わりを通じて，家族のつながりへの理解を深める。

学習活動（◎中心発問，○主な発問，・予想される生徒の反応）	指導上の留意点
導入 1 「家族」の意味合いについて考える。 ○家族とそうでない人との違いって？ ・血縁関係。 ・共同生活。	○授業前の生徒の「家族」の意味合いを明確にさせる。
展開 2 教材「一冊のノート」を読み，話し合う。 ○「知らん顔をして通り過ぎた」のはなぜか。 ・家族と思われなくなかったから。 ・祖母を恥ずかしく思ったから。 ・友達に冷やかされなくなかったから。 ○父は祖母についてどう思っているか。 ・自分が支えていかないといけない。 ・子育てに協力的で感謝している。 ・病気の症状がひどくなってきて悲しい。 ○「祖母の背中が幾分小さくなったように見えた」のはなぜか。 ・祖母の思いを知って，やるせなくなった。 ・衰えても家事をする姿に胸をうたれた。 ・自分が成長していることに気づいた。 ◎どんな気持ちで一緒に草取りをして，「きれいになったね」と声をかけたのか。 ・祖母の愛情に応えたい。 ・少しでも祖母には幸せでいてほしい。 ・衰えた祖母に寄り添わずにはいられない。	○なぜ知らん顔をしてしまったのか，祖母がまともな格好でも同じように振る舞うのかを比べて，理由を考えさせる。 ○父の視点で考えさせることで，主人公と共通する思いや，異なる心情を理解させる。 ○家族の役に立ちたいという祖母の思いは昔から変わらないことを押さえ，弱った祖母に対して思うことを考えさせて，自分の変化にも気づかせる。 ○主人公の心情を考えさせることで，ねらいへの理解を深める。
終末 3 今日の学習でわかったことを書く。	○学習について振り返らせ，自分の学びを整理させる。

○「祖母の背中が幾分小さくなったように見えた」のはなぜか。

S：草取りをしていたのもあるけど，年を重ねたから。
S：祖母の思いを知って，やるせなくなったから。
T：確かにそんな思いもこみあげてきますね。他にありますか。
S：祖母が小さくなったんじゃないくて，自分が大きくなってるのかも…。
S：祖母が年老いた分，自分も成長してるのに気づいた。

◎どんな気持ちで一緒に草取りをして，「きれいになったね」と声をかけたのか。

S：ノートを読んで，祖母の愛情に応えたいと思った。
S：きつく言ってごめんねっていう気持ちや，少しでも祖母には幸せでいてほしいっていう願い。
S：でも，衰えた祖母に寄り添わずにはいられないような，どこか寂しい思いもあると思います。
T：どうしてこんな風に寄り添えるのかな？ 家族ではない人でも，同じようにできるかな？
S：家族じゃなかったら自分は無理かもしれない。
S：家族だからこそ，しんどい思いをしても一緒にいられるんだと思う。

こんなとき、どうする？

今回の
テーマ

子どもに、 「どうして道徳はテストがないの」 と聞かれたら？

子どもたちと接する中で出てくる、「こんなとき、どうする？」。
道徳教育をより輝かせるためのヒントを、先生方に教えていただきました。



道徳には正解がたくさんある

つくば国際大学東風小学校
講師 齋藤真弓

算数や理科のペーパーテストで出される問題の答えには、○や×がつきます。それは、問題に対して、正解、不正解があるからです。道徳では、1つの問題に対して、場面・状況、時と場合、立場や役割などの変化によってたくさんの正解が生じてきます。もしペーパーテストで道徳についての問題を出されても、たくさんの正解の中のある一面についてしか答えられないし、頭の中で場面を想像して仮定で答えてもそれはその子のもっている道徳性そのものではありません。道徳的な問題の正解は、友達の意見と自分の意見を比べたり、全体で話し合ったりしながら自分たちで見つけていくのです。教師は、道徳授業の中での発表や作文、道徳ノート、会話の様子などから子どもたちの道徳性の成長の様子をしっかりと見取っていくのです。

思いやりをテストできますか

愛知学泉大学
教授 前田 治

まずテストの定義です。教科におけるテストは、確かな学力の定着を目的に、定着度を確認するために行います。例えば数学では「10問中8問正解」なら80点というようにテストで定着度を見ます。では道徳科ではどうでしょう。「あなたの思いやりは何点？」と問われても点数で表せません。例えば、いじめに関する教材で道徳的判断力をテスト（評価）するとします。止めに入る＝A・迷う＝B・何も言わない＝Cだとします。では「今、止めに入ると、いじめを受けている子がいっそう追い詰められる」と、何も言わなかった生徒は本当にCでしょうか。このように、心は、ある基準を基にテストをして点数を付けることはできません。よって道徳科では、テストではなく授業を通して生徒を理解し、いかに成長したかを受け止めて生徒の励みとなる評価をします。

「なぜテストをするのでしょうか」

関西外国語大学
教授 太田和男

先生方に、「なぜテストをするのでしょうか」と質問すると、「生徒の能力を知るため、成績をつけるため、指導の成否を知るため、生徒の診断をするため、生徒に勉強させるため」などの答が返ってきます。では、「道徳科でテストは、必要でしょうか」。道徳科では、道徳性を養うという目標に向かって、児童生徒が、道徳的価値の理解や自己理解を深める学習などを通して、自らを振り返り成長を実感することが大切です。道徳科の評価は、テストで見取ることができない、道徳授業の中での発言や児童生徒自身のエピソード、グループでの討論、作文、「道徳ノート」などで、児童生徒の成長の様子を見取ることが大切だと思います。



地球の仲間からの メッセージ

元大阪市天王寺動物園 園長 長瀬 健二郎

母の愛情

動物が子育て真っ最中の初夏の天王寺動物園は、クマゼミの大合唱で夜が明けます。朝の園内巡回の時にセミを捕ってポケットにしまっておきます。それでもポケットから漏れてくるセミの鳴き声を聞きつけた子育て中のタンチョウのお母さんは、私がタンチョウ舎の前を通ると飛んできます。網の目からセミを入れてやると嘴を器用に使ってヒナが食べやすいように、セミの体を小さくちぎり、ヒナの口元に一口ずつ丁寧に運びます。いくらお母さんに食べさせようとしてもダメです。自分は一切食べずにすべてヒナに与えます。ヒナが成長するにつれ、ちぎり方も大まかになり、ついにはセミをヒナに渡すだけになります。親と同じくらいの体格に成長したヒナはそれを一口で丸呑みにします。ここまでよく面倒をみたなあ、と実感する時です。

以前、天王寺動物園の南園のサル山で、ニホンザルの一群れが飼われていました。毎年、たくさんの赤ちゃんが生まれ、出産シーズンには大いににぎわいました。

ある年、それまで元気に育っていた一頭の赤ちゃんが急速に元気を失い、死んでしまいました。あまりに急なできごとで理解ができなかったのかもしれませんが、母ザルは一生懸命毛づくろいをしてあげていましたし、自分の体につかまってくれない死骸を抱きかかえて運び、エサ場へ行く時も、岩山へ上る時も、どこへ行くときも片時も放しませんでした。

死骸は、次第に臭いを発するようになってきました。仲間も嫌がって近づこうとしなくなり、母ザルが近づくと逃げるようになってしまいました。母ザルは



▲ニホンザルの親子

孤立してしまいました。それでも死骸を放しません。我々もあまりの臭いに死骸を回収しようとしたのですが、母ザルは死骸を抱えて3本足で逃げ回り、とうとう我々は回収をあきらめました。

強い異臭の理由を知らないお客様からクレームが入るようになりましたが、事情を説明するとご理解いただけました。中には涙ぐんで立ち去る方もいました。

いよいよ死骸は崩れ始め、原形をとどめなくなってきました。少しずつ脱落した死骸の部分が回収され始めました。それでもほんの少し残った部分を、母ザルはこれまで通り片時も離さず運びました。しかし、最後には母ザルの手元には何もなくなってしまいました。

サル山の頂上に登って中腰になって立ち上がり、まるで何かを捜すように遠くを見ている母ザルを見つけたのはその頃のことです。その姿を、私は忘れることができません。



日文webサイトにて動画配信中！

「昇太師匠を考えよう」



春風亭昇太師匠が伝統文化や友情について子どもたちと語り合います。クラスで視聴するなど、ぜひご活用ください。デジタルコンテンツのページには、落語をする昇太師匠の動画もあります。

動く!とくだ先生!



大好評の道徳教育マンガをモーションコミック(アニメーション)にしました。道徳教育について、より楽しく考えられるようになっていますので、校内研修などにぜひご活用ください。



新学習指導要領完全準拠！

知りたいことがきっとわかる！

道徳教育 Q & A

長年現場を指導してきた著者が
170のギモンに答えます！

例えば……

- ・低学年らしい具体的な導入は？
- ・主人公の気持ちばかり聞くのは？
- ・板書のポイントは？
- ・年間指導計画の作り方は？

などなど

好評
発売中!

著者 河合宣昌

定価 1,620円 (本体1,500円+税8%)

B5判 196ページ

～お知らせ～

「平成30年度版 小学道徳 生きる力 教師用指導書」の付録「指導者用デジタル教科書 DVD-ROM」において、動作環境に一部、不具合がございました。32bit, 64bit 対応と記載しておりますが、32bit 版のパソコンの環境では作動しない機能が一部ございます。32bit 版をご利用の皆様には、たいへんご迷惑をおかけいたしますこと、深くお詫び申し上げます。

なお、32bit 対応版がご入り用の方は、弊社ホームページの「ご要望・お問い合わせフォーム」よりお知らせください。

どうとくのひろば No.22

日文教育資料[道徳]

平成31年(2019年)1月31日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

デザイン:モスリンググラフィック

CD33438

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690